

金沢学院大学・金沢学院短期大学

二〇二五(令和七)年度 入学者選抜試験問題

学校推薦型選抜〈二日目〉

二〇二四年十一月十七日(日)実施

国語

I 注意事項

問題冊子は、試験開始の合図があるまで開いてはいけません。

解答用紙の解答科目欄に受験科目を記入・マークしてから解答してください。

問題は1ページから11ページまであります。

問題は持ち帰ってもよいですが、コピーして配布・使用することは法律で禁じられています。

II 解答上の注意

解答は、解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、「解答番号は 10」と表示のある問いに対して

④と解答する場合は、下記の例のように解答番号10の解答欄の④にマークしてください。

(例)

解答番号	解 答 欄
10	① ② ③ ● ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩

問題は次のページからです。

問1 次の(1)～(5)の傍線部の漢字表記として最も適当なものを、①～⑤の中から一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

(1) 長年の功勞をケンシヨウする。

- ① 健勝
- ② 懸賞
- ③ 憲章
- ④ 顕彰
- ⑤ 検証

(2) その企業はフンシヨク決算の疑いがかけられている。

- ① 分飾
- ② 憤飾
- ③ 粉飾
- ④ 紛飾
- ⑤ 奮飾

(3) 大リーグ選手をめぐる報道がますますカネツする。

- ① 加熱
- ② 過熱
- ③ 化熱
- ④ 火熱
- ⑤ 渦熱

(4) 前人ミトウの大記録。

- ① 未倒
- ② 未討
- ③ 未等
- ④ 未到
- ⑤ 未投

(5) いつになくセイサイを欠いたスピーチ。

- ① 精裁
- ② 清裁
- ③ 精細
- ④ 清彩
- ⑤ 精彩

問2 次の(6)～(10)のカタカナ語の意味として最も適当なものを、後の語群①～⑤の中から一つずつ選べ。解答番号は ～ 。

(6) シェア

(7) トレンド

(8) バーター

(9) テクスチャー

(10) クライアント

語群

① 電車

② 犯罪

③ 共有

④ 境界

⑤ 質感

⑥ 流行

⑦ 文体

⑧ 交換条件

⑨ 威嚇

⑩ 顧客

問3 次の(11)～(20)の意味の慣用句を後の語群①～⑩の中から一つずつ選べ。解答番号は

11

～

20

- (11) 白状する
(12) あまりにも優れていてとても驚く
(13) 気分を害して、言うことを聞かない
(14) 自分の力ではかなわない
(15) 本心を打ち明ける
(16) 小馬鹿にするようなずうずうしい言動をする
(17) 所持金が少ない
(18) 困難で苦労する
(19) とても苦労して働く
(20) 心が晴れ晴れとしてすっきりする

語群

- ① 人を食う
② 懐が寒い
③ 身を粉にする
④ つむじを曲げる
⑤ 歯が立たない
⑥ 胸がすく
⑦ 舌をまく
⑧ 腹を割る
⑨ 口を割る
⑩ 骨が折れる

問4 次の(21)～(25)の空欄に入れるのに最も適当な語を、後の語群①～⑩のうちから一つずつ選び、マークせよ。解答番号は ～ 。

(21) 無理なことを 言っただけだ。

(22) 相談があるので、少しお時間をいただけませんか。

(23) 真夏の練習のあと、 水を飲んだ。

(24) あとで面倒なことになるから、あまり 語らないほうがいいよ。

(25) 犬猿の仲の二人の意見は 一致していた。

語群

① こよなく

② はからずも

③ ひとえに

④ つつがなく

⑤ えてして

⑥ おりいって

⑦ しこたま

⑧ せきららに

⑨ おしむらくは

⑩ おくめんもなく

問5 次の(26)～(30)の四字熟語について、誤りがあれば誤っている漢字の番号①～④を、例のようにマークせよ。誤りがなければ⑤をマークせよ。解答番号は ～ 。

(例) 四面楚家 四面 楚 家 ↓ 正しくは「四面楚歌」なので、④をマーク。

(26) 一期 一期 一 栄

(27) 心 心 一 転

(28) 流 言 非 語

(29) 天 外 孤 独

(30) 豊 年 満 作

問6 次の(31)～(35)の例文で使われている敬語について、正しいものには①、誤っているものには②をマークせよ。

解答番号は

31

35

。

- (31) たまったポイントは月末までご利用できません。
- (32) もう一本早い列車への変更も可能ですが、いかがなさいますか。
- (33) あの掲示をご覧になりましたか。
- (34) これからもよろしくご指導してください。
- (35) 式には参列されますか。

問7 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

非常勤先の大学へ向かう電車のなかで、湊みなとかなえ『告白』の英訳 *Confessions* を読んでいたら、よく分からない表現にぶつかった。

One of the neighbors came over today with some bean cakes they'd brought back from a trip to Kyoto.

やさしい単語ばかりなのに、bean cakes のイメージが湧かない。顔を上げ、車窓を眺めながらじっと考えたのだが、餡あんを使った和菓子であることに気がつくまでには、思いのほか時間がかかってしまった。

帰宅後、原書の該当箇所を調べてみた。

「今日、近所の方から旅行のお土産に、京都の有名な和菓子屋のモナカをいただきました」（双葉文庫版）

なんと、これはモナカだったのか！ さすがにそこまでは分からなかった。

だが、それはかまわない。

小説の翻訳は、本筋と関係ないところで読者に不要な注目をさせるべきではない。注釈だつてとくに要らない。モナカと bean cakes は違うかもしれないが、この場面で大切なのは、和菓子がそれほど好きではない息子が珍しいことにすこし食べるといい出し、それがおいしいといつて突然に涙を流して母親を驚かせることである。ここで変にこだわってモナカのことを詳しく説明しすぎたら、そちらのほうに注目が移ってしまい、小説の展開がおかしくなる。英訳版の読者は bean cakes というところから、なんだか知らないが日本のお菓子らしいぞと想像できれば、それで充分なのである。

考えてみれば『告白』のテーマは、現代世界において普遍的なものなのかもしれない。原作はすでに読了していても、改めて英訳を読んでいると、まるで英語圏が舞台であるかのように錯覚しそうになる。その結果、bean cakes などという、すこし考えれば簡単に分かりそうな表現に引っかかって、しばらく考え込んでしまったのかもしれない。

つまり、それほど翻訳の英文が滑らかなのだ。

海外小説の邦訳には、一昔前までかなり酷いものがあつた。外国語辞典を引いて、見出し語の語義のうち一番目だけを拾ってつなぎ合わせたと思えないような、凄まじいものも珍しくなかった。これなら原著を読んだ方がマシじゃないか。そう考えて、外国語で懸命に読書したこともある。そういう意味ではよかったのだが、だからといって訳者に感謝はしない。

あらゆる翻訳は、その言語が分からない人にとって有益である。とはいえない不自然な日本語訳がよいはずがない。大学院時代、文学を専門にする気はさらさらなかったが、どうしたらよい日本語に訳せるかということは非常に興味があった。その秘訣けつを探るべく、あれこれ読書を続けているうちに出会ったのが、安西徹雄『翻訳英文法』（日本翻訳家養成センター、一九八二年）である。

現在では文庫化されているが（『英文翻訳術』、ちくま学芸文庫）、わたしははじめに手にしたのは改題前の古い版だった。「翻訳」と「文法」という、一見接点のなさそうなキーワードが並んでいることに惹かれて読み始めたのだが、その面白さに夢中になるまで、たいして時間はかからなかった。

安西氏の翻訳哲学の大前提は、「原文で単語や句の並んでいる順序をできるだけ変えないで、頭から順に訳しおろしてゆくように心がける」ことだ。そのため、伝統的な英文法の枠組みを利用しながら、さまざまな工夫を試みるのである。

第一章「所有格を考える」では、次のような例文が挙がっていた。

The dog's attempts to climb the tree after the cat came to nothing.

直訳すれば「猫を追って木に登ろうとする犬の試みは無に帰した」となるだろう。だが安西氏は、自分だったらこれを「犬は、猫の後を追いかけて何度も木に登ろうとしたけれども、無駄だった」と訳すという。この訳文に至るまでには、たとえば dog's のような所有格は attempts の意味上の主語と考えると、その attempts が複数であるところは「何度もした」のように訳すなど、さまざまな工夫を試みたことが解説される。

目から鱗うろこだった。伝統的な学校文法を元に、学校では決して教えてくれないコツが伝授される。『翻訳英文法』では著名な英文法書から例を借用しながら、練習をくり返す。英文法書の和訳も決して悪くはないが、安西氏が訳すとその日本語がさらに生き生きとしてきて、まるで手品を見るようだった。

わたしは自分もやってみたくなくなった。それまで手にした文法書はどれも、何語であるかに関係なく、例文に添えられた訳文が不自然でどこちなく、どうにも不満であった。だが文句をいっても始まらない。それより自分で訳し直してみればいい。

そこで翌日から、某ロシア語文法書の例文についての和訳を、すべて自分で作り直す作業を始めた。大御所による権威あるロシア語例文の和訳だって、時代とともに改めることも悪くはない。

たとえば「学生たちの探検への参加を当てる根拠がある」は「学生たちが探検に参加するはずだと期待を寄せるのにはいくつも根拠がある」と訳し直してみる。読み返し、このほうが分かりやすいはずだと、一人で悦に入る。「根拠」を示すロシア単語が複数形なので「いくつも」と訳してみるあたりは、完全に安西氏の影響を受けていることが窺うかがえる。

こういう態度で臨めば、どんな語学書からも学ぶことができる。不自然な訳文は自分に与えられた課題であると考えれば、むしろ有難いくらいだ。ネット上のブックレビューみたいに、語学書をしたり顔で批評したところで、外国語はちっとも上達しない。

翻訳において大切な点は、頭にスツと入ってやることではないか。いくら文法的に正しくても、「わたしはその父親が医者であるところの少女に出会った」のようなダラダラしているうえに不自然な和訳はいただけない。また原文に忠実すぎるあまり「彼は彼に彼の本を渡した」のような代名詞が過剰な和訳も困る。こういうことに気づき、それを克服するためのきっかけを与えてくれたのが『翻訳英文法』であり、今でも読み直すことがある。

だが最近、ちょっとだけ考えが変わってきた。

頭にスツと入ってこない文も、ときには許されるのではないか。

……問8の文章に続く

(黒田龍之助『物語を忘れた外国語』による。一部改変。)

問い この文章の内容と合致するものに①、合致しないものに②をマークせよ。解答番号は

36

45

。

- (36) 湊かなえ『告白』は、元々は *Confessions* という英語作品から着想を得たものである。
- (37) 著者は *Confessions* を読むにあたって、モナカと *bean cakes* の違いがわかることは大した問題ではないと考えている。
- (38) *bean cakes* がモナカの英訳であることに著者がなかなか気づけなかったのは、この作品が英語圏の作品であったとしてもあまり違和感を覚えなからである。
- (39) *Confessions* を読んでいて、日本の文化や風景が手に取るように目の前に浮かんでくるのは、その英文がとても滑らかだからだ、と著者は言っている。
- (40) 一昔前の海外小説の邦訳が酷かったように、日本小説の英訳にも凄まじいものがあった。
- (41) 著者は、小説の原著を読むきっかけを与えてくれた酷い翻訳者に感謝している。
- (42) 著者の元々の専門は「文学」で、よい日本語訳にするにはどうしたらよいか、ということにかねてから興味があった。
- (43) 安西徹雄『翻訳英文法』には伝統的な英文法の概念を覆すほどの、学校では教えてもらえない手品のようなコツが書かれていた。
- (44) 著者は、語学書の不自然な訳文を、自ら外国語上達のための課題としてとらえている。
- (45) 著者は、翻訳にとって大事なことは、頭にスッと入ってくる訳であることだ、と考えていた。

問8 次は問7の文章の続きである。読んで後の問いに答えよ。

松本清張の小説は、原作を読むことは稀^{まれ}で、むしろ映像のほうに親しんでいる。さらに原著を飛び越えて、英訳を先に読むこともあり、これまでに二冊ほど読了した。

そのうちの一冊は *Points and Lines* (Makiko Yamamoto and Paul C. Blum, Kodansha International) つまり『点と線』である。小林恒夫監督による一九五八年の映画をDVDで観た後で英訳に臨んだため、あらずじは分かっている。おかげで外国語の森に迷い込み、どうにも理解できないということはなかった。むしろ新たな発見のほうが多く、たとえばこの「点」も「線」も英訳タイトルでは複数形になっていることに、妙に感心してしまった。

それだけではない。この *Points and Lines* はいかにも日本語的な表現がそのまま英語に置き換えられており、おかげで非常に分かりやすいのである。

"I must apologize for bothering you again when you're so very busy."

こういうあいさつ表現が、英語圏でどのくらい一般的なのかは分からないが、日本人が読めば「おいそがしいところを、たびたびお邪魔します」といった感じかな、と容易に想像がつく。

清張作品に登場する刑事たちは一昔前の日本語を話す。わたし自身はそういうことばをほとんど使わないのだが、舞台が昭和となれば、そうでなければ気分が出ない。そのためには英訳でもこんな表現が必要なのではないか。

こういう日本語的な表現がさらに多いのが *Inspector Imanishi Investigates* (Beth Cary, Soho Press Inc.) だ。この英訳タイトルからは原題が想像しにくいかもしれないが、『砂の器』のことである。こちらも日本語の原著は読んでおらず、テレビドラマと映画のDVD (野村芳太郎監督、デジタルリマスター版二〇〇五年) を観てから英訳を読んだのだが、そこには日本語の原文が浮かんでくるような表現がいくつもあった。

① 不自然な日本語は困る。でもそれは論文とか記事とかの話であり、物語だったらまた別の考え方ができるのではないか。

② 最近の小説には、ユニバーサルというか、世界のどこでも起こりそうなテーマのものがすくなくない。そのほうが広く受け入れられ、読者は国境を越えて共感するのだろうか。さらにはノーベル賞にも繋^{つな}がるのかもしれない。この傾向はグローバル化が進む現在、ますます強まるのが予想される。

③ たとえば今西米太郎警部補が名刺を渡すときの「This is my name. というセリフ。「私はこういう者です」のつもりであることは、すぐに想像がつく。別の場面では「This is who I am.」といって名刺を渡している。欧米社会で名刺交換するときこのようなセリフをいうか、ふだんから名刺を持ち合わせていないのでよく分からないのだが、すくなくとも欧米映画などではお目にかかったことがない。いかにも日本語的な表現ではないか。こういう表現は不自然だとか、本場の英語社会ではそういう言い方はしないといった批判もあるだろう。英語を母語とする読者にはこういった直訳表現が引っかけり、頭にスツと入ってこないという人もいるかもしれない。

④ だがわたしは、こういう訳もアリだと思っている。
そのほうが、いかにも松本清張の小説らしいではないか。

⑤ 外国作品の邦訳を読むときは、何かしら外国っぽいものを期待していないだろうか。わたしは多分にその傾向がある。たとえば翻訳であっても、ロシアはロシアらしく、フランスはフランスらしく、そしてスウェーデンはスウェーデンらしくあってほしい。読みながら、物語の本筋とは別にその地域らしさが何かないか、その地域特有の表現がせめて片鱗^{りん}くらいは残ってないかと、ついつい追いつめてしまう。

そういうとき、頭にスツと入っていきすぎるとつまらない。

だが、わたしの好みではない。

わたしはその土地に根差した小説が好きである。歴史背景は文化事情が濃厚に反映していて、外国人がただ読んだだけでは容易に理解できない物語。そういうのがいいのだ。

わたしだけではないかもしれない。海外でも三島や谷崎が積極的に紹介されるのには、こんな気持ちがあるのではないか。

世界中が均質化してしまったかに見える現在。海外旅行に出かけても、都会はどこも表面的には同じような姿をしている。世界遺産のような空々しい観光名所にも行かなければ、地域の特色が見いだせない。

だからこそ、せめて小説くらいは地域の文化にどっぷり浸かってほしいのである。そういう作品が読みたい。読めない言語だったら、邦訳を探す。ということ、地域の特色がありすぎる作品は、外国人には難しそうだからと先回りし、訳すのを躊躇^{ためら}わないでほしい。さらにそういう作品の邦訳では、その地域らしさが残っているほうが、なんだか嬉しいのである。

翻訳を読みながら、おやつ? と感じる。何か引つかかる。それはワインの渋みのようなもので、すべて取り除いてしまうとむしろ「おいしく」ない。

外国の作品なのだから、その訳にも外国らしさを残してほしい。引つかかることも、ときには大切なのではないか。

だから今西警部補が帰宅後に、妻から食事はどうするか尋ねられ、*Just some tea over rice would be fine.* と答える場面を読みながら、外国人はなんだか知らないけどそういう食べ物があるのだなと想像し、日本人ならば、ははあ、これはお茶漬けのことなんだろうなと想像して、それぞれが楽しめばいいのである。

(黒田龍之助『物語を忘れた外国語』による。一部改変。)

問い 文章の枠内①～⑤を意味が通るように並べ替えたとき、最後に配置される文はどれか。一つ選び、記号で答えよ。解答番号は

46

。

**2025(令和7)年度 金沢学院大学・金沢学院短期大学
学校推薦型選抜（2024年11月17日実施）
解答例〔基礎学力試験〕**

国語							
解答番号		正解	配点	解答番号		配点	
問1	1	④	1	問5	26	④	1
	2	③	1		27	②	1
	3	②	1		28	③	1
	4	④	1		29	②	1
	5	⑤	1		30	⑤	1
問2	6	③	1	問6	31	②	1
	7	⑥	1		32	①	1
	8	⑧	1		33	②	1
	9	⑤	1		34	②	1
	10	⑩	1		35	①	1
問3	11	⑨	1	問7	36	②	1
	12	⑦	1		37	①	1
	13	④	1		38	①	1
	14	⑤	1		39	②	1
	15	⑧	1		40	②	1
	16	①	1		41	②	1
	17	②	1		42	②	1
	18	⑩	1		43	②	1
	19	③	1		44	①	1
	20	⑥	1		45	①	1
問4	21	⑩	1	問8	46	②	5
	22	⑥	1				
	23	⑦	1				
	24	⑧	1				
	25	②	1				

計	50
---	----